

素読舎新聞

編集人
村田晴彦

発行人
根石吉久

発行所
千曲市鑄物師屋
642-3
電話
090-4181-5912

各学校で塾生が学年トップ！

うれしい報告の数々

◎ 殖生中学三年生R君、復習テストで学年トップ！

R君は四月初めの復習テストで英語の学年トップになりました（同点がもう一人いたのでトップは二人でした）。

R君は二年の秋に戸倉分室に入塾しました。最初は教材を読む声小さかったのですが、だんだん力強い声で読めるようになってきました。正確にはつきりと読めるようになってくると、英文を読み取る力も次第についてきます。

最初、「ひとまず三年生の四月に受ける一・二年の復習テストが最初の勝負だ」と言ってきましたが、R君がほんの半年ほどで学年トップになったのは、彼が地道に教材を音読し続けた成果だと思います。

■ 体験入学で

R君はこの夏、長野高校の体験授業に行き、英語の授業を一時間ほど受けてきました。

授業の内容は、ジョン・レノンについての長文を読んだから、それについて先生が質問してくるという形式だったようです。R君にとって、先生の質問はとくに難しいものではなかったようです。でも、他の人たちはかなり苦戦していたようです。その場にはテストの点に自信がある人たちが集まっていたと思います。先生の質問に答えられない人も多かったようです。

素読舎で作る英語力は単にテストで点を取るための英語力ではありません。試験での得点テクニクも教えません。その代り、英文の意味を一つ一つ確かめることができるよ

うになります。R君の例ではそれがよくわかります。（村田晴彦）

◎ 中二でも学年トップ！

■ 進級テストで百点！

Aさんの中学（長野市内）では、学年が変わる時に進級テストがあるそうです。Aさんは、一年生から二年生に上がる時の進級テストで、百点を取りました。

百点の上はないので、Aさんは実質学年トップです。Aさんの話を聞いてみると、どのテストも範囲がかなり広いようで、一週間やそこらの「テスト勉強」ではとても間に合わないようです。

素読舎では、塾生はいつでも大量の復習をします。塾生は、何度も何度も復習をして、英語の基礎体力を分厚くしながら、新しい部分を少しづつ、確実に身につけていくので、足元がぐらつくことはありません。試験の範囲が広くても、基礎がしっかりしているので、こわいことはありません。

■ 暗誦の時間

英語の授業で、教科書の暗誦の時間があつたそうです。ひとりひとり順番に暗誦していくことになっていったそうです。

Aさんは、小学生の頃から素読舎で中学生用の教科書の素読をやつていて、教科書をこなれた音ですらすら読みます。Aさんの番になると、Aさんが暗誦し終わると、教室中が拍手喝采だったとか。あるクラスメイトが、「すげー、ガイジンみてえ！」と言っていたそうです。

「ガイジンみてえ！」というのは、Aさんの発音やイントネーションがまるでネイティブのように聞こえたということです。ことだと思えますが、クラスメイトの子たちにもAさんの音が「良い音」ということがわかったんだと思います。ちなみに、拍手喝采があつたのはAさんの時だけだったそうです。

Aさんは小学生の頃からがんばり屋さんで、一生懸命練習していました。こういう話

を聞くとほんとにうれしくな
ります。(村田晴彦)

◎須坂高校学年トップ

村田君に学年トップの記事
を書いてくれと頼んでから、
そういえば、「電話でレッス
ン」の生徒にも学年トップが
あったなと思ひ出しました。

今須坂高校三年生のKさん
は、小学五年で素読舎を使い
始め、高校生になってから二
度学年トップになっています。

「最近学年トップはないの
かな」と先日、「電話でレッス
ン」のときにたずねたところ、
最近のテストでは学年二番だ
ったとのことでした。最初の
学年トップは二〇〇六年、高
校入学後すぐに行われたテス
トでした。二度目の学年トッ
プは、去年の四月、進研模試
(ベネッセ)の全国模試で、
須坂高校二年生の学年トップ
になりました。その後は部活
のスポーツの大会などで県外
に出かけたりして忙しく、現
在は学年二番になっていると
いうことです。

Kさんは二つ年上のお姉さ
んが素読舎を使って成績が伸
びたことから、私のレッスンを
受けてくれるようになりま
した。お姉さんは、中学の頃
よく学年トップになり、今は
信州大学教育学部の一年生で
松本にいます。英語が抜群に
できます。信州大学在学中に、
アメリカに留学を予定してい
ます。大学生になってからも、
松本から「スカイプでレッス
ン」で私のレッスンを継続し
てくれています。

お姉さんが小学生の頃は、
信州中野から毎週小島の素読
舎まで通ってもらったのです
が、Kさんが中学生になる頃、
お母さんが人を集めてくださ
って、数人の子供たちの英語
を見るために、私のほうから
週に一度、中野まで出かけて
いた期間がありました。村の
神社に付属する建物の一室を
借りて、三年ほど通いました。
その後、私が「電話でレッス
ン」を始めたので、「電話でレ
ッスン」に移ってもらおうよう
にお願いして、中野まで通う

ことはやめました。それから
六、七年ほどたちます。その
頃の生徒さんとその後の生徒
さんとで合計五人の生徒さん
が「電話でレッスン」や「ス
カイプでレッスン」を受けて
くれました。今でも三人が「電
話でレッスン」か「スカイプ
のレッスン」の生徒としてレ
ッスンを続けています。

(根石吉久)

◎教科書暗誦で学年トップ

埴生中学二年生のT君は、
学校の教科書暗誦コンテスト
でダントツの学年トップです。
埴生中学の二年生は、学年
全体で英語の教科書暗誦のコ
ンテストをやっているそうで
す。T君に詳しく話を聞いて
みると、日本語の訳を見て英
文を言えれば「〇」印がもら
えて、何も見ないで英文を言
うことができれば「☆」印が
もらえるということでした。

今までは、ダントツで「☆」
印をもらっている生徒が一人
いたようですが、今ではT君
がその子を追い抜き、他の生

徒よりもずっと先に行ってい
るとのことでした。十月現在
で他の生徒は Lesson4 以前に
とどまっています。T君は
Lesson5まで進んでいます。T
君は、素読舎で二年の教科書
の音読は一通り終わらせてあ
り、今は一年・二年の教科書
の全範囲の音読の復習をして
います。

素読舎では頭だけでやる暗
記はしません。何度もテキス
トを声を出して読んでいろ
うの、自然と文を覚えてしま
うのです。

もし、他の学校でも同じよ
うな試みをしていたら、素読
舎の塾生がトップグループに
名を残すでしょう。

素読舎

素読舎は大手の学習塾に比
べれば、現在、塾生の数はと
ても少ないです。でも、塾生
はみんな「まともな音」||「通
用する音」で英文を読むこと
ができるようになっていきま
す。「まともな音」で英文を読
むことができ、それに理解が
ともなうことによって、たと

えば今回上に挙げた塾生たちのように、テストで学年トップになったり、トップグループの常連になっていたりします。素読舎の塾生は、「英語の基礎体力」が普通とは比べものになりませんので、ひとたび試験に集中すれば、どんどん伸びます。部活が終わった中学三年生や、そろそろ受験を意識しだす二年生たちのこれからが楽しみです。

(村田晴彦)

新しい教材が誕生！

—「小学生用文法教材」—

素読舎塾長・根石吉久による新しい教材が誕生しました。小学生用の文法教材です。根石塾長は、三十年近くに渡り、独自の教材を作ってきた。その長い経験と実績に裏打ちされた、最新の教材です。

今まで、小学生用には、「ABC D」という教材がありました。

「ABC D」は小学四年生以上が対象でした。新しい「小学生用文法教材」は、小学三年生からが対象となります。素読舎では、素読を原理とした方法でレッスン（素読舎では「練習」と言います）をしています。素読を原理とした方法の特徴を、塾長は次のように言っています。

- ・ その場で理解を求めない
- ・ 暗記をやらせない・用語、理路に時間をかけてよくなじませる（準備に時間をかける）
- ・ 覚えようと思ったわけではないのに、覚えてしまったものが増えていく
- ・ 英文まるごとを少しずつ蓄積していく
- ・ 正しい理解は一瞬でいい（それで一生ものとして刻まれる）

こういった特徴を持つ素読を原理とした方法が、小学生には最適です。

新しい教材は、従来の教材よりも、素読を原理とした方法のためにさらに洗練されて

います。

塾では、コーチが例文を読んだ後、塾生がその例文を五回以上すらすらと読めるように練習します。これを、塾では「技法グラウンド」と呼んでいます。「小学生用文法教材」は、「技法グラウンド」で練習するための最良の教材です。この教材は、新しい例文を練習するたびに、それに関連する以前にやった例文や、以前に出てきた文法の説明などを、その都度、読むようになっていきます。常に、今までの復習をしながら新しいことをやるようになっていくのです。

最初は意味がわからなくとも、「小学生用文法教材」と「技法グラウンド」の組み合わせで、いつの間にか文法も、読解力も身につくようになります。

「小学生用文法教材」は、塾長が「電話でレッスン」で社会人向けに作っている教材と同じ作り方がしてあります。「電話でレッスン」の生徒の

方には、一流メーカーの海外営業の方や、高校の英語の先生、英検一級保持者の方もいます。「小学生用文法教材」を終了した塾生には、社会人の生徒さんが使っている映画のスクリーンを題材にした教材に移行するコースも用意してあります。

§ § §

「小学生用文法教材」は、これまでの素読舎の教材の集大成なのです。

ある小学四年生の塾生のお母さんは、入塾時に「この子は勉強が嫌いな子です。」と言っていました。お母さんは最初、お子さんがもつといやがるところに思っていたそうです。ところが意に反して、喜んで塾へ来て練習をしている。それが意外だったそうです。新しい教材は、その場ですぐわかるようにできています。わかるから楽しい、楽しいからもっとやる。そういういいサイクルができていくのですね。もっと多くの人に、この教材での練習を体験してほしいで

す。現在、一か月の無料体験期間を設けていますので、是非、まわりの方に声をおかけください。(村田晴彦)

塾のやり方が変わりました

新しい教材を導入することによって、塾の運営の基本方針が変わりました。

以前は、「最低これだけやったら帰っていい」という方針でしたが、「このくらいの練習ができるなら、このくらいまでやってもいい」という方針に切り替わりました。方針は変わりましたが、素読をもとにした方法には変わりありません。

また、先に進んでいる塾生が、後から来る塾生の練習の面倒を見るという方式を始めました。素読舎には独自に作った「あいうえおフォニック」発音のポイント」という説明法があります。ほぼすべて決まり文句になっていますので、先輩塾生は後輩の面倒を見る事ができます。先輩

塾生は、後輩塾生の練習の面倒を見ることによって自分の復習を分厚くすることができず。一般の進学塾が「先生↓生徒」という一方通行の受け身の姿勢を作ってしまったがちなのに対して、素読舎では塾生一人一人が、自分を鍛えていくという心構えを持つていきます。こういうことができる場所は、なかなか見つけることができせん。

§ § §

塾で先輩が後輩の面倒をみている場面では、先輩の塾生の方が「何かをつかんだ」一瞬を垣間見る時があります。最近見た一例を紹介します。

先輩は、何度も何度も飽きるほど読んだ英文を、後輩に對してお手本として読んであげます。後輩はそれを真似して英文を読むのですが、最初からうまくいく後輩はあまりいません。先輩は素読舎独自の説明法の決まり文句で、後輩の間違いを直していきます。決まり文句を言っているうちに、先輩の方が、「あ！」と

いうそぶりを見せました。母音の発音に関する説明のところでした。

あとで聞いてみると、それまではコーチの言う説明の「決まり文句」をただの決まり文句として聞いていたとのこと。もちろん、決まり文句を言われて自分も音を直されているけれど、今までは漫然と聞いていた。人に説明することで、「決まり文句」の意味がほんとにわかった気がする、ということでした。

塾生同士が教え合う素読舎の教室は、活気にあふれています。(村田晴彦)

「電話でレッスン」

「スカイプでレッスン」

新しい文法教材を使った、「電話でレッスン」「スカイプでレッスン」受講者を募集をしています。「電話でレッスン」は今までコーチ一人対生徒一人でした。塾長は、今までやってきた「電話でレッスン」の経験から、生徒さんが

二人以上で「電話でレッスン」をする方法を練ってきました。受話器を持たずに通話ができる「手ぶらホン式」の電話機があればレッスンの一枠を、二人、あるいは三人の生徒さんで共有できます。

また、スカイプというパソコンのソフトを導入していたら、「スカイプでレッスン」ができます。

スカイプはフリーソフトで、これを使うと、インターネットを通して、インターネット接続料金以外は無料で通話することができます。「電話でレッスン」同様、一枠を二人、あるいは三人で使っていました。

英語をやり直してみたい方、遠くの友達とも一緒にレッスンを受けることができます。お問い合わせは掲示板「大風呂敷」までお願いします。(村田晴彦)

「大風呂敷」のアドレス

<http://8100.teacup.com/oburoshiki/bbs>